

2020年度 人間学研究科報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況 (実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
大学院人間学研究科では、2018年度の授業評価の平均値が、前期科目 22科目 平均値:4.79 平均値範囲:5~4.5、後期科目 21科目 平均値:4.88 平均値範囲5~4.55、通年科目 22科目 平均値4.83 平均値範囲5~4.0であったことをふまえ、2020年度の目標値として、全ての科目について、平均値4.9、平均値の範囲5~4.6とする。 人間学研究科では、この2年間にコース別FD研修会を行い、授業の質的向上を議論してきた。このFD研修会を継続し、授業評価の数値が改善された成果を分析し、さらにより結果を導くにはどうしたらよいか議論していく。	DPに基づく授業改善計画を再設定。インプット評価1)院生の実態把握と授業準備2)シラバス作成と教材準備を計画内部質保証のための教育改善システムを作成実施。方法:プロセス評価を導入1)教育課程の適切な運営(講義・演習・実験・免許資格に伴う実習)結果:コロナの状況下で対面授業に支障をきたしたがオンラインのメリットを生かし遂行。2)授業外活動:ガイダンス、修士論文個別指導、中間・論文発表、各種センターとの連携結果:オンラインを利用しスムーズに運営。3)教育課程外活動(学会研究発表等)結果:中止未実施	前期B'slink及びTeams利用:オンラインによる新しい授業形態実施・授業外活動の開発を実施100%。FD・授業アンケートから後期のオンライン授業改善100%。学会参加率0%。	DPの到達目標の検証と教育改善。実践との差異・行動評価および分析方法:プロセス・アウトプット評価。1)FD等による教員自身の授業評価結果:院生インタビューを論点とし供給者目線から学修者目線へ転換。非常に高い成果。2)院生による授業アンケート評価結果:オンライン授業のメリット生かした授業方法は院生に高評価。課題提示法など混乱:改善の余地あり。3)修士論文口述試験による評価結果:オンライン実施・スムーズな運営・高評価。4)就職・進学状況評価結果:心理学専攻は80%。人間学専攻は100%。	FD研修会・授業アンケート・修士論文口述試験・自己点検評価	B'sVision2024の方針に基づき自立と共生の理念を踏まえ共生社会に向けた高度な専門性と豊かな人間性を育成するPLAN再設定が必要。そのためにPDCの内容の改善が必要。1)自己点検評価に基づくコース別教育方法(在籍院生の特徴 保育:現職者・社会福祉:外国籍・心理:資格取得希望者)の検討と改善が必要(含:シラバス)。授業アンケートから対面とオンラインの併用による授業改善必要。2)教学に関する方針を踏まえ院生の視点を重視したFD研修が必要。3)認証評価:是正勧告から特別研究の審査基準明確化、改善課題:0.38の定員管理の徹底・検証必要、教育課程の体系化(カリキュラムマップ作成・ナンバリング)必要。

2021年度 人間学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一及び永久サポート大学の観点から保育学コース:現職院生の修士論文執筆率100%、社会福祉学コース:外国籍院生の修了及び進級への配慮として研究方法の伝授及びメンタルケアを行う。、臨床心理学コース:資格取得率向上と就職率向上(80%以上)を目標とする。
認証評価「改善課題」から本研究科修士課程0.38の定員管理について検証及び評価を行い充足を目指す。
教学に関する方針を踏まえ、院生の視点を重視した供給者目線から学修者目線によるFD研修を実施する。
認証評価「是正勧告」を踏まえ、修士論文特定課題の審査基準を明示し『人間学研究科要覧』及びHP上において公表する。
認証評価「改善課題」を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示すため、カリキュラムマップ作成及びナンバリングを実施し教育課程の体系化を図る。
認証評価結果を踏まえ、適切な教員組織の編成と運営を検討する。具体的項目として、教授・准教授・助教、専攻別、性別(男女等)比、年齢、学術型教員、専門領域のバランスのとれた教員編成を図る。